

株主の皆様へ

UACJ

Leading Aluminum. Leading the Way.

2016年3月期
上半期報告

2015年4月1日～2015年9月30日



特集

タイのラヨン製造所
見学ツアー

株式会社UACJ

証券コード: 5741

増収減益となりましたが、 期初の予想を大きく上回りました。



代表取締役会長 CEO
山内 重徳

代表取締役社長 CEO
岡田 満

当上半期を振り返って

当上半期のアルミニウム圧延業界は、LNG船向けの需要が本格化した厚板や、アルミニウム化が進展したコーヒー缶により需要が大きく伸長した飲料缶、トラック・バス関連が好調だった自動車関連などが堅調に推移したものの、箔地やIT関連が減少したこともあり、主力となる板材全体での国内需要は、対前年比で微増となりました。押出材については、需要の低迷が続いていましたが、第2四半期以降は回復傾向を示しつつあります。

このような市場環境のもと、当上半期のUACJグループの売上高は、前下半期から5月頃まで上昇が続いていた地金価格の影響もあって2,914億円(前年同期比3.8%増)となりました。

損益面では、営業利益は89億円(同31.9%減)、経常利益は73億円(同37.5%減)と、残念ながら減益となりました。これは、5月以降の急激な地金価格下落にともなう棚卸評価関係の悪化や、タイ新工場の立ち上げコストの増加などによるものです。しかし、

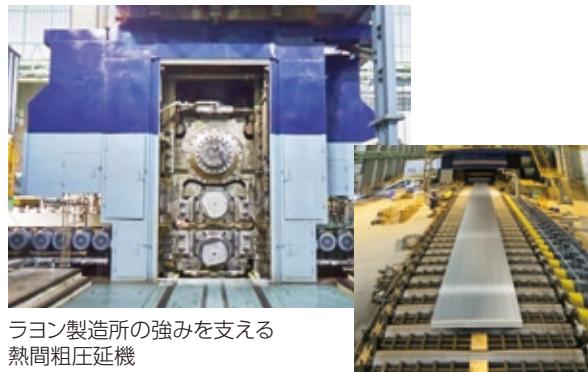
これらの要因はあらかじめ折り込み済みであり、コストダウンなどの成果により、経常利益は期初に予想していた50億円を大きく上回りました。

親会社株主に帰属する四半期純利益については、43億円(同22.2%減)となり、経常利益の減少幅より小さくなっていますが、これは北米のローガン工場での設備故障による損失に対する保険金を特別利益として計上したためです。

グローバル展開のさらなる強化

当社グループは、統合以来、「世界的な競争力を持つアルミニウムメジャーグループ」の実現に向けて、日本、タイ、米国を基軸にしたグローバル供給体制の強化に取り組んできました。当上半期も、海外各地でさまざまな施策を実施しています。

タイでは、株主・投資家の皆様からもご期待いただいているUACJ (Thailand) Co., Ltd.ラヨン製造所において、鑄造から熱間圧延までの第2期ラインが2015年8月に完成を迎えました。これにより、先に稼働を開始していた冷間圧延以降の第1期ラインと合わせて、一貫生産体制が確立し、アジアトップクラスのアルミニウム圧延工場が本格稼働しました。11月にはグランドオープニングセレモニーを開催し、タイの政財界をはじめ、日本および各国の



ラヨン製造所の強みを支える
熱間粗圧延機

お客様、お取引先様など多くのご来賓に参加いただきました。

なお、ラヨン製造所は、缶メーカーや自動車の熱交換器メーカーが多くの工場を構えるアジアの中心部に位置しています。周辺地域では旺盛な需要がありながら、供給体制は十分とは言えません。こうした市場環境を踏まえ、2017年までに年間20万トンの供給体制を確立する計画であり、将来は年間30万トン体制を目指します。高品質と低コストの両立を強みに、こうした継続的な投資と、製造、販売、研究開発が一体となったアプローチを通じてグローバル市場での競争力を高めていきます。

北米市場では、燃費規制の強化を背景に、自動車用パネル材の需要が急速に拡大しており、2020年には150万トンを超えると見られています。こうした需要の増大に対応するため、当社は、2014年12月に

欧州のConstellium N. V.社と自動車用パネル材を製造・販売する合併会社を設立しました。現在は、ケンタッキー州に年間10万トンの生産能力を持つ工場を建設中で、2016年の完成を予定しています。さらに市場の拡大を見据えて、第二期投資も検討しており、さらなる増強を進めていく計画です。

また、2015年10月には、北米子会社のTri-Arrows Aluminum Inc. (以下、TAA)がローガン工場に対し2.4億ドルの投資を行うことを決定しました。今回の投資は、今後の拡大が見込まれる北米のアルミニウム需要に応えるため、鋳造を含めた生産能力全体の増強を図るものです。これにより、TAAはアルミニウム缶材市場におけるプレゼンスをさらに高めると



建設中の合併会社新工場(2016年完成予定)

もに、自動車市場を含む他のマーケットへの製品提供も可能になります。当社グループ全体にとっても、北米市場での戦略を実現するための重要な基盤になると期待しています。

今後も引き続きグローバル供給体制の強化に努め、グローバルマーケットでの存在をさらに高めていきますので、その成果にご期待ください。

今後の見通しと株主還元について

当上半期の業績は、売上高はほぼ計画通りに推移し、損益面では在庫の増減にともなうコストの期ずれなどにより、予想を上回る結果となりました。

しかし、中国の経済情勢や地金価格の急変など、先行きに不透明感があることなどから、通期の業績につきましては、第1四半期決算発表時の予想値を据え置き、売上高は6,100億円(前期比6.5%増)、営業利益は170億円(同28.2%減)、経常利益は130億円(同39.1%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は60億円(同30.6%減)を計画しています。

なお、株主の皆様への配当につきましては、期初の予定通り、中間期は1株につき3円とし、期末についても予定通り3円、年間合計6円としています。

株主の皆様には、今後も変わらぬご指導、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

特集 グローバル主要拠点

タイのラヨン製造所 見学ツアー

UACJグループがアジアの基幹工場と位置付ける
UACJ (Thailand) Co., Ltd. (以下、UATH) ラヨン製造所が、
2015年8月に一貫生産体制を確立し、本格稼働を迎えました。
今回は、このラヨン製造所の魅力をより詳しくご理解いただけるよう、
誌上見学ツアーにご案内します。

需要や物流で
好適な
ラヨン製造所へ
ようこそ



ラヨン製造所

ラヨン製造所は、アルミニウム材を原料とする缶メーカーや熱交換器メーカーが多くの工場を構えるアジアの中心部に、約50万m²の広大な敷地を有しています。首都バンコクの国際空港から100kmほど、港までは約30kmというロケーションで、需要と物流の両面での“地の利”と生産能力の高さを活かし、アジア経済の発展を支えています。

- 缶メーカー
- 熱交換器メーカー

完成した一貫生産ラインを ご案内します。

一貫生産ラインが稼働したので、供給がスピーディに!



溶解鋳造炉
重量33.5トンの大型鋳塊を一度に最大5本製造できる溶解鋳造炉

設備が大きいので
需要の拡大にも
対応できますよ

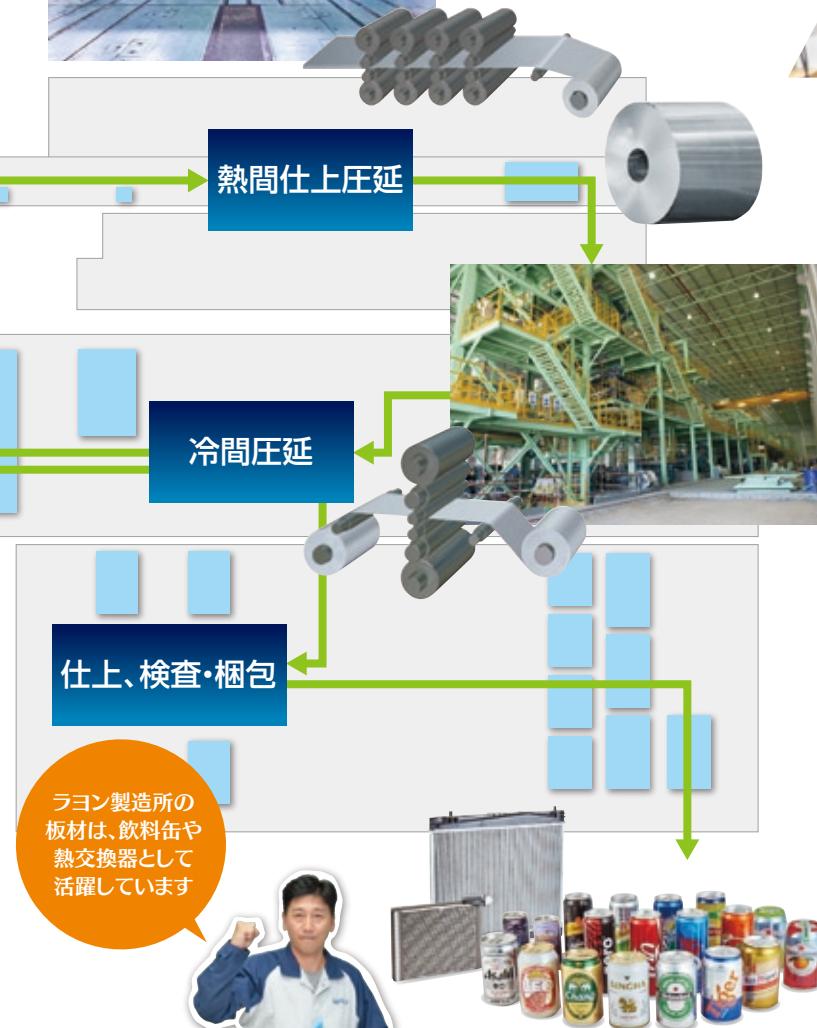


熱間粗圧延機
全長372mの大型粗圧延機で、ロールの間を15回ほど往復して、厚さ500mmの鋳塊を約30mmまで圧延可能





熱間仕上圧延機
4つのスタンドを備えた連続圧延機で、厚さ30mmの板材を2~3mmにまで均一に圧延



UATH山口社長メッセージ

UACJ流のものづくりを現地化し タイの産業に貢献していきます。

UACJグループのグローバル展開における主要拠点、UATHラヨン製造所によろこそ。

私はUATHの責任者として、当社グループの発展はもとより、タイの産業発展に貢献していきたいと考えています。そのため、日本で培ってきた高品質なものづくりのDNAを根付かせながら、現地の文化や従業員の気質に合わせたタイ流のものづくりを実践し、やがては現地従業員のみで運営できるようにしていきたいと思います。

まずは従業員教育と設備増強に資源を投下し、日本と同レベルの生産体制づくりを目指します。将来は、アジアだけでなく中東諸国、さらには世界中に出荷できる体制を実現するとともに、生産品種の増加も検討していきます。

UACJ (Thailand) Co., Ltd.
代表取締役社長 山口 明則



連結貸借対照表

単位：百万円(四捨五入)

科目	期別	前連結会計年度 (2015年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間 (2015年9月30日)
資産の部			
流動資産		269,889	268,271
固定資産		408,063	407,650
有形固定資産		292,374	296,398
無形固定資産		65,871	63,917
投資その他の資産		49,818	47,334
資産合計		677,952	675,921
負債の部			
流動負債		287,884	249,995
固定負債		202,932	236,796
負債合計		490,816	486,791
純資産の部			
株主資本		151,287	154,450
その他の包括利益累計額		21,018	20,544
非支配株主持分		14,831	14,136
純資産合計		187,136	189,130
負債純資産合計		677,952	675,921

連結損益計算書

単位：百万円(四捨五入)

科目	期別	前第2四半期 連結累計期間 (2014年4月1日～ 2014年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (2015年4月1日～ 2015年9月30日)
売上高		280,586	291,383
売上原価		243,484	257,115
売上総利益		37,102	34,267
販売費及び一般管理費		24,041	25,376
営業利益		13,061	8,891
営業外収益		1,014	1,223
営業外費用		2,358	2,790
経常利益		11,716	7,323
特別利益		17	1,306
特別損失		792	275
税金等調整前四半期純利益		10,942	8,354
法人税等合計		4,633	3,754
四半期純利益		6,308	4,600
非支配株主に帰属する四半期純利益		739	269
親会社株主に帰属する四半期純利益		5,569	4,331

連結包括利益計算書

単位：百万円(四捨五入)

科目	期別	前第2四半期 連結累計期間 (2014年4月1日～ 2014年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (2015年4月1日～ 2015年9月30日)
四半期純利益		6,308	4,600
その他の包括利益		3,150	△ 452
四半期包括利益		9,458	4,148

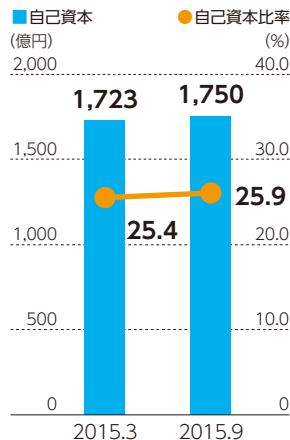
連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円(四捨五入)

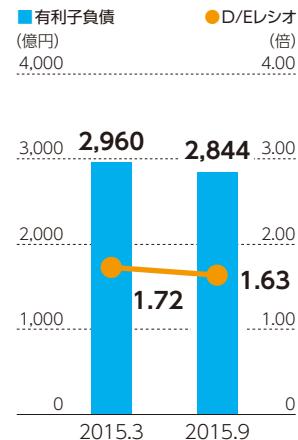
科目	期別	
	前第2四半期 連結累計期間 (2014年4月1日～ 2014年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (2015年4月1日～ 2015年9月30日)
営業活動による キャッシュ・フロー	8,910	8,048
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 25,387	△ 18,627
財務活動による キャッシュ・フロー	20,866	4,417
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△ 200	130
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	4,189	△ 6,032
現金及び現金同等物の 期首残高	17,471	20,949
連結の範囲の変更に伴う 現金及び現金同等物の増減額	274	—
現金及び現金同等物の 四半期末残高	21,934	14,917

主要連結経営指標

自己資本／自己資本比率



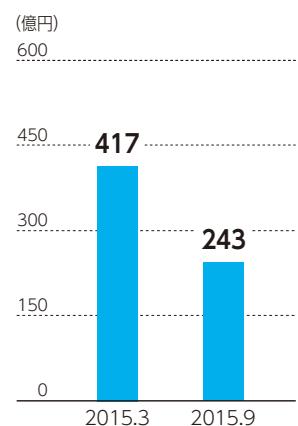
有利子負債／D/Eレシオ



ROE※1



Adjusted EBITDA※2



※1 年ベース換算値

※2 Adjusted EBITDA: EBITDA - 棚卸評価関係

会社データ

名 称	株式会社UACJ (英文名:UACJ Corporation)
事業内容	アルミニウム・銅等の非鉄金属及びその合金の 圧延製品・鋳物製品・鍛造製品並びに加工品の 製造・販売など
資本金	450億円

拠点一覧

本 社	東京都千代田区大手町1丁目7番2号 東京サンケイビル
製造所	名古屋(愛知県)/福井(福井県) 深谷(埼玉県)/日光(栃木県)
支社・支店	中部支社(愛知県)/関西支社(大阪府) 九州支社(福岡県) 北海道支店(北海道)/静岡支店(静岡県)
研究所	技術開発研究所(愛知県)

役員一覧

取締役	代表取締役会長 CEO	山内 重徳
	代表取締役社長 CEO	岡田 満
	取締役兼副社長執行役員	伊東 修二郎
	取締役兼専務執行役員	荘司 啓三
		中野 隆喜
	取締役兼常務執行役員	田中 清
		土屋 博範
		渋江 和久
		長谷川 久
		石原 美幸
	取締役(社外、非常勤)	鈴木 俊夫
監査役	常勤監査役	杉山 涼子
		石原 宣宏
		加藤 一正
	監査役(社外、非常勤)	浅野 明
		佐藤 哲哉
		曾根 貴史
		松村 篤樹

執行役員	専務執行役員	白石 重和
		楠本 昭彦
	常務執行役員	松浦 達郎
	執行役員	清水 洋二
		福井 裕之
		新堀 勝康
		種岡 瑞穂
		山口 明則
		阿部 禎一
		川島 輝夫
	田口 正高	
	手島 雅裕	
	今泉 明人	
	松下 彰	
	稲垣 公樹	
	吉田 明典	
	細見 和弘	
	大谷 隆英	

株式の状況

発行可能 1,700,000,000株

株式総数

発行済 428,281,934株

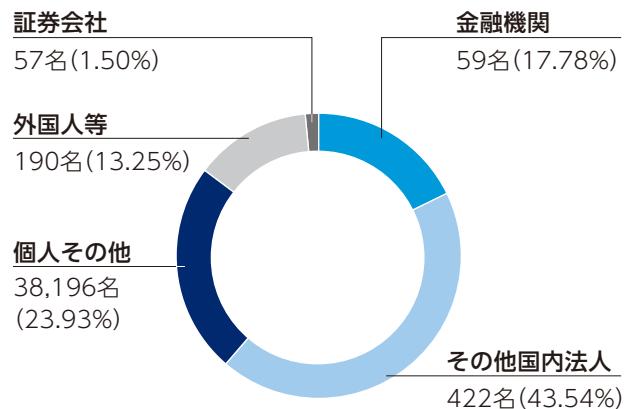
株式総数 ※ 自己株式568,223株を含む

株主数 38,924名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株数比率(%)
古河電気工業株式会社	120,365	28.10
新日鐵住金株式会社	37,446	8.74
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	9,960	2.32
JP MORGAN CHASE BANK 385632	9,184	2.14
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	9,116	2.12
住友商事株式会社	7,500	1.75
株式会社みずほ銀行	7,331	1.71
株式会社三井住友銀行	7,330	1.71
UACJグループ従業員持株会	6,216	1.45
三井住友信託銀行株式会社	5,313	1.24

所有者別の構成比率(株式数比率)



素材の特性を活かして 自動車に広がるアルミニウム

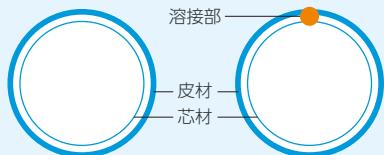
低炭素社会の実現に向けて、世界中の自動車メーカーが燃費向上のための軽量化を追求するなか、ボディパネル材をはじめ、あらゆる自動車部材にアルミニウムの採用が進んでいます。UACJグループは、あらゆる部材への要求に対応できる、多様かつ高度な生産技術を発揮して、北米を中心に広がるアルミニウム製自動車部材の需要にお応えしています。



Close Up

国内で唯一、シームレスクラッド管を生産可能なメーカーとして熱交換器材市場で国内トップシェアを獲得

自動車などの熱交換器に用いられるクラッド管は、一般的には板材を丸めて溶接して製造されるため、溶接部の耐食性や強度が課題になります。その点、株式会社UACJ押出加工で製造するシームレスクラッド管は、それら課題の解決に加え、曲げなどの加工も容易であり、被覆を施して長寿命化も図れます。国内で唯一、シームレスクラッド管を生産可能な技術力を活かして、自動車メーカーの高度な要求にお応えしていきます。



シームレスクラッド管

一般的なクラッド管

ボンネット

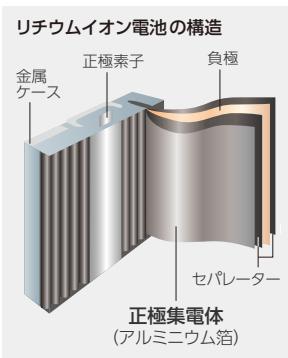
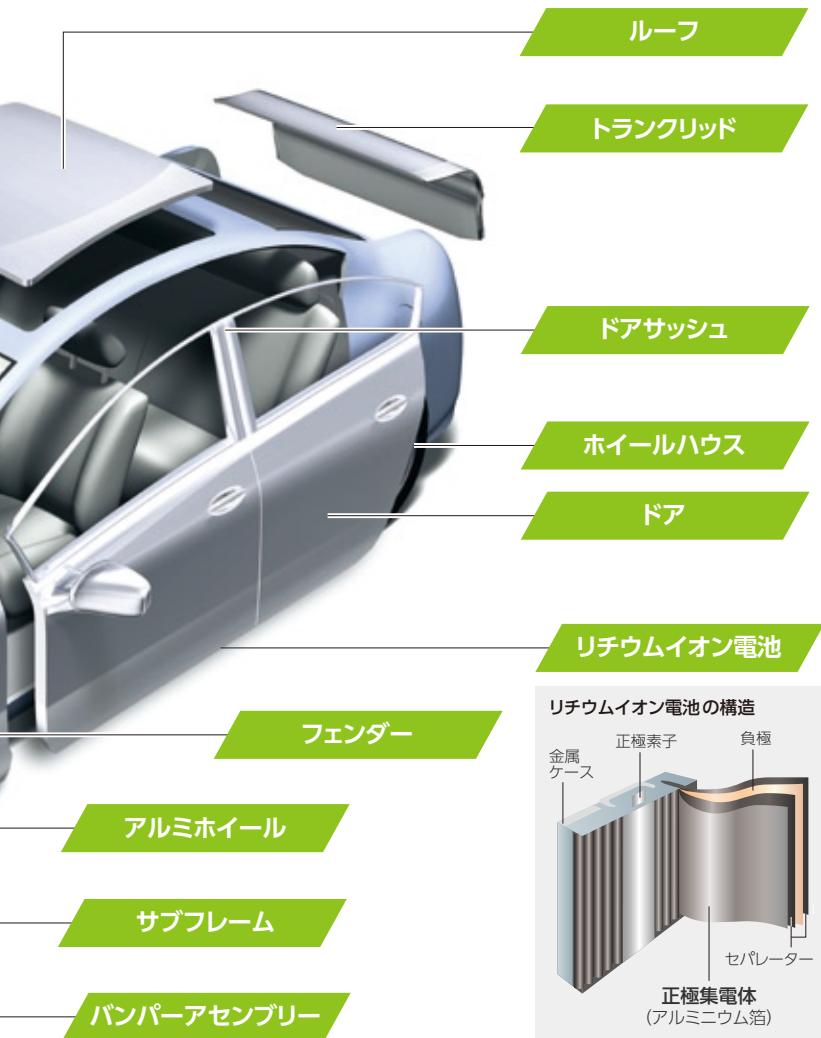
エンジンルーム内

エンジン

ラジエータ

コンデンサ





TOPICS

UACJのバンパーアセンブリーが 新型「マツダロードスター」に採用

UACJグループがマツダ(株)と共同で研究・試作を重ねてきたアルミニウム製軽量バンパーアセンブリーが、2015年5月に販売を開始した新型「マツダロードスター」に採用されました。各部位ごとに材料・工法の最適化を図ることで、従来比で約32%の大幅な軽量化を達成し、車体軽量化に大きく貢献しています。



今回採用されたバンパーアセンブリー

技術開発 研究所

Research and
Development
Division



このコーナーでは、国内外の拠点を所属社員が紹介します。
今回はグループの研究開発拠点である技術開発研究所を紹介します。

中期経営計画のもと、 成長分野での新技術・新製品の開発に挑戦

名古屋製造所内に位置する技術開発研究所は、基盤技術の研究から新製品・新技術の開発まで、UACJグループの研究開発を一手に担っています。今年度からスタートした中期経営計画「Global Step I」では、「先端基礎研究の強化と豊富な蓄積技術の活用による新技術・新製品の開発」を目的として、右図にある4つの成長分野において、新技術への挑戦と迅速な製品化に注力していきます。

最先端の研究開発環境を活かして、 グループ体となって実用化に注力

どんなに優れた技術でも、量産品として実用化できなければ意味がありません。このため技術開発研究所では、試作プラントを活用して開発段階から量産時の課題に対処しています。さらに、生産現場やお客様に近いという利点を活かして、日頃から緊密な連携に努めることで、高付加価値な新製品の早期実用化を可能にしています。



プレス試験機



試験圧延機

中期経営計画に掲げる成長分野

- リチウムイオン電池
- 燃料電池
- 再生可能エネルギー

エネルギー



- リサイクル
- 排熱

環境



輸送

- 自動車
- 航空機
- 船舶



IT・情報

- PC
- サーバー
- 記憶媒体



技術開発研究所って、どんなところにあるの？

技術開発研究所は名古屋製造所の敷地内に位置しています。名古屋製造所では毎年4月に稲荷神社への奉納行事を起源とする「稲荷祭」を開催。技術開発研究所のメンバーも積極的に参加し、製造所内の各部署とのコミュニケーションを図るのはもちろん、来場いただく近隣住民の方々とも交流を深めています。

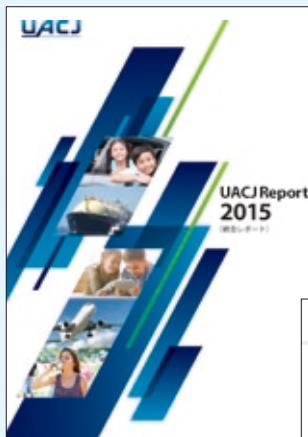


株主の皆様とのコミュニケーションの場として、最新の情報を発信します。



統合レポート「UACJ Report 2015」を発行しました

UACJグループとして初となる統合レポート「UACJ Report 2015」を発行しました。統合レポートとは、業績および営業概況、今後の戦略などの財務情報に加え、CSR活動などの非財務情報を総合的に報告し、当社グループの活動（経営）を包括的に理解いただくためのレポートです。ウェブサイトを通じて広く



PDF版

開示するとともに、IRサイトやCSRサイトとの連動により、詳細な情報を入手できるようにしています。



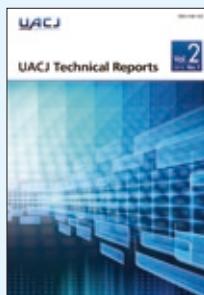
オンライン版

<http://www.uacj.co.jp/integrated/index.htm>



技術情報誌「UACJ Technical Reports」を発行しました

アルミニウムや銅、それらの合金の技術開発に関する情報誌・学術誌として、当社グループでは「UACJ Technical Reports」を発行しています。同誌は統合以前に両社がそれぞれ発行していた「Furukawa-Sky Review」と「住友軽金属技報」を融合したもので、



2015年3月に創刊し、10月に第2号を発行しました。今後もアルミニウム等の技術開発に関する情報誌・学術誌の“Number One”を目指し、当社グループの最新技術開発情報を発信していきます。



「株主様向けアンケート」にご協力ください

UACJでは、株主の皆様とのコミュニケーション促進に向けて、定期的に「株主様向けアンケート」を実施しています。いただいたご回答は、「株主の皆様へ」の制作をはじめとしたIR活動の充実に活かしていきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当基準日	3月31日 (中間配当を行う場合は9月30日)
定時株主総会	毎年6月下旬
単元株式数	1,000株
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
公告方法	電子公告 http://www.uacj.co.jp/ (やむを得ない事由により、電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。)

確定申告の際には、同封の配当金計算書をご利用いただけます。株式数比例配分方式を選択された株主様については、お取引の証券会社にご確認ください。

株式会社UACJ

〒100-0004 東京都千代田区大手町1丁目7番2号
東京サンケイビル
Tel. 03-6202-2600(代表) Fax. 03-6202-2021
<http://www.uacj.co.jp/>



単元未満株式の買取制度のご案内

当社では、単元株制度を採用しており、1単元は1,000株とさせていただきます。

単元未満株式(1～999株)は議決権がなく、また証券市場にて売買することができません。

単元未満株式につきましては、法律および当社定款・株式取扱規則の規定に基づき単元未満株式の買取制度をご利用いただけます。

※2015年12月31日までの期間限定で、単元未満株式の買取請求に際して当社にお支払いいただく**買取手数料を無料**としていますが、**2016年6月30日まで延長**いたします。

証券口座に株式をご所有の株主様

お取引の証券会社にお問い合わせください。

特別口座に株式をご所有の株主様

下記の通り、お問い合わせください。

●旧住友軽金属工業の株式をお持ちであった株主様

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
(土・日・祝日を除く 9:00～17:00)

●旧古河スカイの株式をお持ちであった株主様

みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
電話 0120-288-324(フリーダイヤル)
(土・日・祝日を除く 9:00～17:00)